

『小説 すずめの戸締まり』 新海 誠

「行ってきます」。新海誠さん、待望の最新作の小説版です！東日本大震災に対して抱いてきた思いを、かたちにした作品！満天の星と太陽、全部の時間が混じりあったような空のしたで母を探す4歳のころの自分を繰り返し夢見る17歳の少女、鈴芽。九州で叔母と二人で暮らす彼女は、ある夏の朝、美しい景色みたい綺麗な青年から、このあたりに廃墟がないか尋ねられる。扉を探しているのだそうだ。どこかで彼に会った気がした鈴芽は、彼を追いかけて廃墟へと向かう。廃墟に彼はいなかったが、扉らしきものを見つけ、扉を開け、足下の石像を引き抜くと、やがて地震があり、封じられていた巨大なミミズが出てきてしまう。彼は、災いが出てこないように、開いてしまった扉に鍵をかける「閉じ師」だった。ひとり災いを押し戻して扉を閉じようと奮闘する彼に、鈴芽は力を貸す。初めての「戸締まり」だった。彼は草太といった。ケガをした草太の手当てをしようとして家に行くと、石像が姿を変えた白猫が現れ、呪いをかけて草太を鈴芽の部屋にあった子ども椅子にしてしまう。鈴芽と三本足の小さな椅子になってしまった草太の白猫の大追跡が始まる。かくして、二人の“戸締まりの旅”が始まったのである…。

『カラダ探し』上下 ウェルザード

「死んでも死んでも、殺される」。小説投稿サイトで人気No.1となり、マンガ版も大人気のケータイ小説が、橋本環奈主演で実写映画化！しかも主題歌は Ado！話題騒然のホラーです！どこの学校にもある怪談話に過ぎないはずだった。「赤い人」。放課後の校舎で、ひとりになった生徒の前に現れ、見てしまった者は決して振り返ってはならず、振り返ると八つ裂きにされ校舎にバラバラに隠されるという。殺された生徒は、翌日「カラダを探して」と頼むが…。友達の遥はるかに「カラダを探して」と頼まれてしまった明日香。時計が0時を告げると、なぜか学校にいた。遥に声をかけられたほかの友達と六人。すると、頭のとっぺんから足の先まで真っ赤に染まった女の子が現れ、六人は惨殺されてしまう。だが、目を覚ますとまた同じ一日が始まり、再び殺されることに。カラダをすべて見つけなければ、永遠に同じ恐怖の殺戮の日が繰り返されてしまうのだった…。

『よだかの片想い』 島本理生

本校でも大人気の島本さんの傑作を、松井玲奈主演で映画化！「生まれつきのものを可哀想だと言うのなら、私は一生否定されることになってしまう」。顔に大きなアザがあり、注目されないよう注意深く生きてきたアイコは、「顔にアザのある人の本」のインタビューを受け、その本の表紙のモデルとなった。本は大評判となり、人気絶頂の女優主演で映画化されることに。その流れで出会った映画監督・飛坂は、表紙の写真が大好きだったと言う。「あんなに真っすぐ強い目ができる人は、そうそういないから。きっとすごく芯が通っていて、がんばっている人なんだって」。その言葉を聞いて、アイコは不覚にも泣いてしまう。そして、彼の昔の作品を見て、思い通りにならない現実置き去りにされている女の子の気持ちを彼が拾い上げてくれていることに感動し、飛坂のことを好きになる。初めての恋だった…。

ひやつか 『百花』 川村元気

『君の名は。』を筆頭に手がけた作品がことごとくメガヒット、小説でもその才能をいかんなく発揮している川村元気の作品を菅田将暉主演で映画化！選んだテーマは「認知症」。祖母に「あなた誰？」と言われた体験をきっかけに、認知症について徹底的に取材をし、生みだされた作品です。また、単なる認知症の物語であるだけでなく、もっと大きな「記憶」も重要なテーマとされています。人は何を覚えていて、何を忘れてしまうのかということです。女手一つで育てられた泉は、母の誕生日が1月1日ということもあり、大晦日はいつも母と二人だけで過ごしていた。母が一人で暮らしている家に行くと、約束の時間に母がいなかった。1時間近く待って捜すと、薄暗くなった公園でブランコに揺られ「わたし…帰らなきゃ」「帰らなきゃ、いけないの」などと呟いている。声をかけると、普段の母に戻った。気になる点がいくつかあったが、大丈夫だと思っていた。しかし、もう始まっていたのだった。スーパーで会計をせず外に出てしまい、警察のお世話になった。若年性アルツハイマー型の認知症だった。症状が悪化しいろいろなことがわからなくなってしまいうちに、泉は母との思い出、母がやさしくしてくれたことを思い出していく。そのなかには、「あんなに嬉しかったのに、どうして忘れてしまったんだろう」というものもあった。一方、泉は、とめどなく母の記憶が失われていくなかで、ふたりが封印し「なかった」ことにしていた過去と向かい合おうとする。それは、いまも彼を縛りつける、中2になる直前に「母に捨てられた」記憶だった…。

『#真相をお話しします』 結城真一郎

どんでん返し大好き、だまされて驚きたいあなたのためのミステリ短編集！ かすかな違和感を感じたときには、もうあなたに罠が仕掛けられています。どの短編も予想を鮮やかに裏切って必ずやあなたを驚かせてくれることでしょう。日本推理作家協会賞短編部門受賞作「#拡散希望」を紹介します。「ねえ、一緒に YouTuber にならない？」「島育ちの男女四人組なんて、ウケそうじゃない？」ぼくが生まれてすぐに、ぼくらの家族は現代生活から隔絶されたような小さな島、^{もんめじま} 勿島へと移住してきた。小学生は4人で、ぼくらが来なければ、凛子が唯一の小学生になるところだった。小3のある日に、凛子が iPhone7 を買ってもらったと持ってきて YouTube の存在を知る。いろいろ見て楽しんでいると、見知らぬピンクモヒカンの男が現れ一緒に映らないか誘ってきたが、その男は何者かに殺されてしまう。その日からよくしてくれた島の人々はなぜかよそよそしくなり、凛子もぼくらから距離を置くようになってしまうのだった。そして、小学校卒業を控えた3月、凛子が遺体で発見される…。

『medium 霊媒探偵城塚翡翠』 相沢沙呼

2019年のミステリランキングで5冠を達成した傑作が、清原果耶主演でTVドラマ化！ タイトルの medium とは、霊媒の意。medium の複数形が media であり、本来は「媒体・間を介するもの」を意味します。ここ数年、関東地方を騒がせている連続死体遺棄事件。若くて美しい女性ばかりが8人も殺されていた。犯人はまるで死を運ぶ亡霊であるかのように、いっさいの証拠を残していなかった。こんなこの世ならざる犯罪者を捕らえることなど、誰ができるというのだろう。通常の場合なら。ミステリ作家の香月史郎は、娘を殺された母親から犯人を見つけ出すよう依頼された。彼は探偵ではないが、霊能力者である女性といくつもの難事件を解決してきたのだった。霊媒の力を使って。城塚翡翠。長い黒髪に美しい碧玉色の瞳をした、人形めいた美しさをもつ、北欧系のクォーターの美女。霊視によって、即座に犯人を特定することができた。推理などまったく必要としない。ただ、そこに証拠能力はないので、論理を用いて現実へと媒介するのが、香月の役割だった。彼女は「普通の死を迎えることができない」「防ぎようのない死が、そこまでこの身に近づいているのを感じる」と言っていた。それは、連続殺人鬼と相対することで訪れる死のことではないか。実際はドジっ娘の彼女に惹かれていた香月は、死を避けるために先に殺人鬼に辿り着こうとするが…。「すべてが、伏線」。裏切られる快感！

『線は、僕を描く』 とがみひろまさ 砥上裕將

水墨画の世界を描き、ブランチ BOOK 大賞受賞、本屋大賞第3位のデビュー作が、横浜流星主演で映画化！ 両親を交通事故で喪い、喪失感を抱いていた大学生・青山霜介は、唯一の友人に誘われて、巨大な展示場のパネルとパーティションを無数に搬入する過酷な肉体労働をさせられることに。なんとか作業が終わり、展示会場をうろついていると、偶然出会った老人と会場をいっしょに見て回るようになった。会場には何百もの水墨画が飾られていた。水墨画に特に興味もないし、何の知識もない霜介だったが、水墨画の感覚はしっくりときて、「真っ白になってしまった経験がある」からだど老人に伝えると、「もしかしたら人が一生生きてってわからないことかもしれない」と妙に感心されてしまうのだった。最後に大きく華麗な薔薇の水墨画の感想を聞かれ、素直に答えると「慧眼だ」とまた感心され、その場で内弟子にされてしまう。老人は、水墨画の巨匠・篠田湖山こざんであった。薔薇の絵の作者であり、霜介が内弟子にされるのが気に食わない、ものすごい美人の湖山の孫・千瑛ちあきは、霜介に一年後の「湖山賞」をかけての勝負を迫る。わけのわからないうちに水墨画の世界に引っ張り込まれた霜介だったが、次第に水墨画の魅力に魅了され、同時に癒されていくのだった…。

『マリアビートル』 伊坂幸太郎

ブラッド・ピット主演でハリウッド映画化というのは、冗談ではありませんでした！『ブレット・トレイン』というタイトルで絶賛公開中！殺し屋たちの物語。舞台は東北新幹線の車内。元殺し屋の木村は、幼い息子をデパートの屋上から突き落とされた復讐を果たそうとするが、「悪意に満ちた中学生」王子に返り討ちにされてしまう。蜜柑みかんと檸檬れもんのコンビは、裏世界のボスの息子を救出し、身代金を回収し、犯行グループを皆殺しにして乗車したが、身代金が入ったトランクを奪われ息子も殺されてしまう。まったくツキのない七尾は、指示通りトランクを奪って降りようとしたところ、恨みを買った殺し屋・狼と鉢合わせしてしまい…。新幹線は殺し屋ばかり！ 最高の面白さ！

『ぼくらの戦争なんだぜ』 高橋源一郎

戦争の話はつまらない。求められるのは優等生の回答で、「彼らの戦争」の話だからだ。それを「ぼくらの戦争」の話にするために。戦時下の日本の教科書を読む。世界の教科書を読む。戦意昂揚のために書かれた国策詩を読む。「戦争小説」の傑作を読む。「おもしろい」戦争小説を読む。太宰の偉大さを知る。

